


2016年度 なごや歴まちフォローアップ講座第4回 状況記録

	日時	平成28年9月3日(土)	14:00~16:00
	場所	愛知芸術文化センター12階アートスペースE・F	
	講師	津村泰範(つむら やすのり)氏	
	出席者	歴まちびと24名、サポーター8名、一般23名、公社4名(合計59名)	

1 開会 14:00~14:10 司会の鈴木委員長より開会の挨拶と講師の紹介により開会となる。
歴まちびとの会会長野村氏による挨拶は会としての派遣、及び講座や津村講師の実績の紹介であった。

2 講演：津村泰範(長岡造形大学准教授・修復建築家)氏 14:10~15:40

歴史的建造物活用保存セミナー 「文化財建造物の保存修理のプロセス」

講座内容

・文化財建造物の保存修理

津村氏の講演は、あの藤森研究室で近代建築史を学んだあと(株)降幡設計で民家再生から文化財建造物の保存修理へ進んだとの自己紹介で始まった。長野では高橋記念館などの保存活用や伝建地区への関わり迄、多岐に及んでいる。文化財は日常の適切な管理と周期的な保存修理が不可欠である。この保存修理では破損した部材であっても補修により再利用し、取換材は当時の技法・再現に努めるべきである。尚、根本ではない維持修理には部分修理、屋根葺き替、耐震補強、調査工事などがある。

・重要文化財「岩手銀行(旧盛岡銀行)旧本店本館」保存修理

東京駅丸の内駅舎設計の辰野金吾と葛西萬司の作である。特徴は特異なドームや屋根、赤レンガに白色のスカイライン、ボリュームのある搭屋などがある。調査は創建当初の仕様を探る資料調査からのスタートであり、建物では棟札など、写真・建築雑誌・新聞記事などが修復の重要なベースとなったとのことである。

・登録有形文化財修理事業における技術指導

国宝・重要文化財建造物保存修理補助事業の事例紹介があった。文化財の修理は所有者自らが行うが、支援の為、国や地方公共団体が指導、経費の補助を行う体制となっている。保存と活用は豊かな社会への貢献であり、そして、広がる文化財、多様化する活用から用途の変更もあるが「活用」がより重要となる。尚、昨年度の講師である渡邊義孝氏のみはらし亭がジョイントとして事例紹介されたため、会場の渡邊氏から特別に津村氏とのことなどのコメントを頂いた。

・まとめ

改修調査で重要なことは何処をどうやって残して、又それを活かしていくかの見極めである。それが次世代への橋渡しになればまことに幸いである。



スクリーンの右が講師の津村泰範氏、左のマイクが前年度講師の渡邊義孝氏と鈴木委員長

講義風景

3 意見交換 15:45～16:10

- ・津村先生には工事にかかる補助金や税制の優遇制度・寄付などによる資金面の問題、建物調査における具体的な方法、なにを優先して考えるかなどの質問に丁寧な受け答えを頂き、有難うございました。

4 閉会 16:10

- ・名古屋まちづくり公社主幹：稲垣登氏のお礼の挨拶で終了する。同時に公社事業やクラウドファンディングの紹介もあった。鈴木委員長、池田副委員長、並びに委員の皆様には長時間、お疲れ様でした。

文責：猪飼 2016/12/06